

逐語記録にもとづく授業分析諸手法

一分節・発言関連図・発言表・中間項

1 逐語記録にもとづく授業分析のための手法の開発と適用

逐語記録を中心とする資料を精読することが分析作業の中心である。ある程度定式化された手続き、すなわち分析手法も生み出されてきた。

2 逐語記録にもとづく授業分析諸手法

(1) 分節わけ

授業をいくつかの分節にわけて、その相互の関連から授業の展開を構造的に把握するためのものである。逐語記録から一目で授業の構造をとらえることは困難であるが、分節にわけることによってこれを補うことができる。ただし、どこで区切るのかは明確な基準が定式化されているわけではないため、分節は、授業（記録）から一方的に導かれるのではなく、分析者の授業のとらえ方が大きく反映する。

(2) 発言の関連図

発言と発言の関連を図として表わしたものとさまざまな形式のものが用いられている。たとえば八田（1961）は、1分節の全発言（73発言）について、横方向に発言順位、縦方向に発言者をとった平面上に、各発言を位置付けその内容を記し、また発言同士の関係（同方向、反対、同一人の同一主張）や子どもの対立関係を線の種類で表わしている。

(3) 八田の構造分析表

八田（1962; 重松ほか 1963, p.590）は、分析視点によって主要な発言を

分類整理した表（構造分析表）を作成している。これは、分析視点を縦方向、分節を横方向にしたマトリックスの各セルに、相当する主要発言を記載し、あわせてその視点にもとづく発言の特徴を記したものである。

(4) 発言表（発言者一覧表）

授業において誰がいつ発言しているかが一覧できるように、さまざまな形式の表が用いられている。たとえば、八田（1963）は、縦横に、発言者と時間をとった表に、発言番号を記載した表を作成している（発言者一覧表）。

中村（1986）は、横方向に発言者をとった表に発言量（逐語記録上での行数など）に対応した長さの線を縦方向にかきいれた発言表を開発している。また、表の中に発言内容の要旨や、発言同士の関連を示す線や円をかきいれ、発言の内容面も一覧できるようにした発言表も活用している。

さらに、発言表を発展させたものとして、田代（1988）は、発言の長さを示す線のかわりに、発言に含まれる主要概念を記号化したものを書き入れた表を作成している。また田上（1990）は、子どもの発言の特徴を縦断的に追究するために、数時にわたる個人別発言表を作成している。

(5) 中間項

名古屋大学教育方法研究室グループでは、授業の理論的モデルを構成することを目的とし、授業に含み込まれている、あるいは介在している、子どもの経験、直観、操作、教師の助言や指示といった授業諸要因を関連構造として、授業分析を通して授業から抽出する研究が進められている。その中で、記録（発言や作文）から直接抽出することが困難な要因（たとえば直観などの精神活動のレベルの要因）を顕在化させるために、記録と要因の間に中間項という記述形式を設定し、発言・作文を、内容を捨象しないように中間項に転換（再構成）している（日比ほか1992;日比ほか1993）。

中間項を設定する意味は、一つには、発言を中間項へ転換することによって、児童の発言がどのような概念や構想の相互の関連として成立しているかをより明確にとらえることができることである。また、今までと見落としていたことも分析の対象とせざるを得なくなり、児童発言の具体的な事実に即した解釈が可能になることである（日比ほか1992, p.130）。

八田 昭平 (1961) 授業におけるつまづきと子どもの思考の発展 -授業分析試論 (1) -. 名古屋大学教育学部紀要, 7: 94-117

八田 昭平 (1962) 授業における目標の設定とその実現 -授業分析試論 (2) -. 名古屋大学教育学部紀要, 9: 123-146

- 日比 裕・的場 正美・石川 英志・飯島 薫・平山 勉 (1992) 中間項の設定による授業諸要因の顕在化と関連構造の抽出. 名古屋大学教育学部紀要-教育学科-, 38: 325-364
- 日比 裕・的場 正美・石川 英志・飯島 薫・平山 勉・柴田 好章 (1993) 児童発言の中間項への転換 (発言の再構成) にもとづく子どもの思考過程の相互関連の顕在化. 名古屋大学教育学部紀要-教育学科-, 39(2): 127-156
- 中村 亨 (1986) 発言表を使用する授業分析 -授業における子どもの相互関係にふれて-. 日本教育方法学会紀要, 12: 111-118
- 重松 鷹泰・上田 薫・八田 昭平 (1963) 授業分析の理論と実際. 黎明書房
- 田上 哲 (1990) 授業の縦断的研究に関する一視点 -個人別発言表を使用した子どもの発言の追究-. 日本教育方法学会紀要, 16: 107-116
- 田代 裕一 (1988) 発言表を使用する授業分析 -ワープロ処理による授業の内容的構造の追究. 日本教育方法学会紀要, 14: 39-49

柴田好章. 「授業分析における量的手法と質的手法を統合に関する研究」, 風間書房, 2002年.

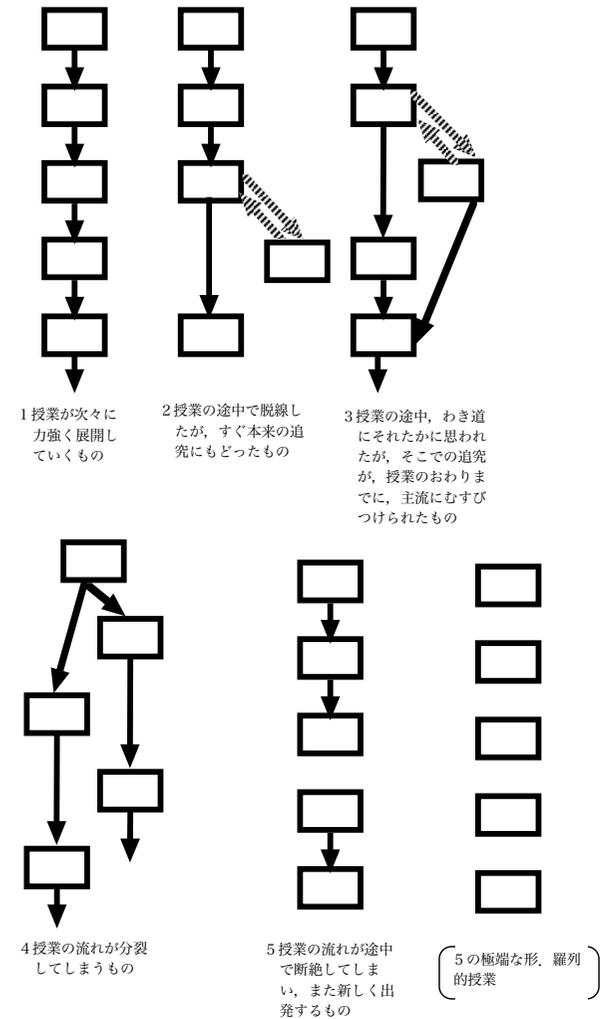


図5-4-1 重松 (1961, p.64-66) による授業の分節構造のモデル